



校章 井荻中学校運営協議会だより  
令和2年度 第6回井荻中学校運営協議会活動報告

- ◆会長挨拶・世の中コロナで大騒ぎです。ペスト、コレラ、コロナと100年おきに災いがやってきているようです。現代の文明においてもこれに勝てないという人類の儂さを感じざるを得ません。本校においては授業の進行が遅れたということはないようです。先生方のご努力の賜と考えております。今年初めての協議会を宜しくお願い致します。
- ◆校長挨拶・コロナ禍の中、色々な変更があり過ぎて対応に苦慮するという状態が続いております。学校として様々な判断をして行く中で、運営協議会や支援本部の皆様を支えて頂いてどうか1年を終えることが出来ますが、まだまだ手を緩める状況ではありません。これからもご指導を宜しくお願い致します。
- ◆学校の様子・3月になってから保護者会・修学旅行・文化発表会・卒業式・終業式等様々な行事が予定されていますが、緊急事態宣言が延長されるのか、解除されるのかによって実施方法が大きく異なってきます。どのような状況にも対応できるように準備をしていきます。子供達は健康で、授業を始めよく努力しています。21日には3年生の都立高校入試が終わり、本日から定期考査絵を迎えています。3月2日が都立の発表日です。それぞれの子供達が自分の選択に進んでいけることを願っています。

◆議題①教育調査について

学校より・肯定率数値に関しては昨年度とあまり変わりはない。生徒の肯定感が高いものは、ICT機器の活用、学習成果の実感、学級経営、保護者は学習成果の実感、学級経営です。肯定率の低いものは、生徒は地域との連携、保護者は小中一貫、特別支援教育です。コロナにより保護者の方に学校の様子を見て頂く機会が少なくなっていることが教育調査の結果にも表れているのでコロナが収束したら学校公開を進めていきたいと考えています。無理な場合はホームページ等での発信を工夫していきます。

委員より・道徳教育の肯定率が高いことは良いことだ。

ICT機器の活用に関して、生徒と保護者の受け止めに差がある。保護者がついて行けなくなるのではないかと、何らかの対応策が必要になってくるかも知れない。

教育の基本である、学級経営、学習成果の実感、体育健康教育に関する肯定率が生徒、保護者共に高い事は良い教育が行われていることの証である。

小中一貫教育の肯定率が低いと、教育調査の結果、学年別の差が見られないことから考えると中一ギャップは心配ないと考えられる。

②令和3年度教育課程について・学校側の説明の後、審議し承認しました。

委員より・ICT教育の充実で一人一台ずつタブレットが配布されるのは結構ですが、学力格差が生じないようにご指導いただきたい。

読後交流会と並行して実施する予定の調査研究に関し、皆でテーマを決めて調べる際、安易にインターネットに依存せず、現地に行ったり図書館で調べる等出所をはっきりさせたほうが良いのではないかと、またビブリオバトルのような手法を考えることも必要ではないかと。

次回は3月10日(水) 16:00~1階小会議室 傍聴希望者は副校長まで

[運営協議会だよりは、右のQRコードを読み取ることでスマホからもご覧になれます。]

